

## 微熱とたんが続いています

## 微熱とたんが続く病気にはどのようなものがありますか？

肺結核は以前多かったのですが、現在でも最も気を付けなければならない病気の一つです。たんに血が混ざったり、寝汗が続いたり、だるさが続いて体重が減ったりといった症状が同時に出てくることも多いです。結核菌は人から人に空気の流れによって感染するので、場合によっては一度に多くの肺結核患者さんが発生してしまう危険性があります。糖尿病や血液透析を受けている患者さん、血液や免疫の病気の患者さん、全身ステロイドや特定の分子標的薬などで免疫を強く抑える治療を受けている患者さん、進行癌や高齢で体力が落ちてきた患者さんなどでは、肺結核を発症する可能性が高いため特に注意が必要です。非結核性抗酸菌は、結核菌と同様に菌周囲にバリアを持って胃酸に強く、増殖が比較的ゆっくりな病原菌ですが、人から人に移ることほとんどないと言われています。肺アスペルギルス症は環境にいるカビが原因であり、肺結核の時と同様に免疫力の低下している患者さんで注意が必要ですが、肺の病気によって気管支が変形したところで増えて病気を起こすことも知られています。感染症以外では肺がん、間質性肺炎なども考えられます。

## 微熱とたんが続く病気の検査にはどのようなものがありますか？

肺結核が心配な場合には、マスクをして人ごみを避けながら、早めに近くのクリニックあるいは

大きな病院の呼吸器内科を受診しましょう。胸のエックス線写真や胸部CTスキャン検査で結核特有の陰影が確認できます。熱の程度や体温の日内変動を記録して担当医にみてもらうこともよいでしょう。診断にはたんを容器に出す検査がとても大切です。肺結核でたんが出にくい時には胃液の検査で代用することもあります。また一度では診断がつかずに、3日間連続で検査に提出することもあります。最近では、血液検査によって過去の感染を確認する検査（T-SPOTやQFTなどのIGRA検査、抗MAC抗体など）ができるクリニックも増えてきています。なかなか診断がつかないときや肺アスペルギルス症、肺がん、間質性肺炎が疑われる時には大きな病院で気管支内視鏡検査が行われます。

## 微熱とたんが続く病気の治療にはどのようなものがありますか？

肺結核では、周囲の人への感染を防ぐために感染症法にもとづいて周囲の人々から一定期間隔離して入院治療する場合があります。原則として3～4種類の薬を併用し、6ヶ月～9ヶ月間にわたり内服治療を続けます。たんの中から生きた結核菌が消えたら外来で治療継続することもできます。結核治療で大切なことは、薬の服用を勝手に中断してはいけないということ、また長期間服用しますので副作用にも十分注意が必要であるということです。肺結核と違って、肺非結核性抗酸菌症は患者さん全員が治療するとは限りません。薬の効果があまり期待できないことや副作用の問題があ

るためです。肺の陰影がわずかで症状も全くない  
65歳以上の元気な患者さんでは、治療しないで  
慎重に経過を見ることもあります。一方で、肺が  
徐々に変形する患者さん、発熱や血痰が続いて日  
常生活に支障をきたす患者さんなどでは、クラリ  
スロマイシンという抗菌薬を含む3種類の薬を併  
用して1~2年くらい内服治療することになりま  
す。肺アスペルギルス症で血痰や咯血を繰り返す

場合には、気管支動脈塞栓術という方法で病変部  
に伸びる血管を詰めて出血を止めつつ抗真菌薬で  
長期間治療を行うことや、手術で肺の一部を切除  
することもあります。一部の間質性肺炎では全身  
ステロイドや免疫抑制剤を用いて治療します。肺  
がんでは進行の程度によって治療法が変わります  
ので専門の先生と相談して決めます。

(2016年12月)

MEMO

日本呼吸器学会では学会ホームページにて「市民のみなさま向け」に様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください!



## 呼吸器の病気

Respiratory disease

『疾患別』に症状や、診断・治療方法を解説しています。

## 呼吸器

Q&A



『症状から』対応方法などをQ&A形式でお答えします。

※ここに書かれている内容は、あくまで一般的なものであり、必ずしも貴方の病気にあてはまらない事  
ありますので、この内容を参考にし、呼吸器の専門医の診察を受けてください。

日本呼吸器学会  
ホームページ

[www.jrs.or.jp/](http://www.jrs.or.jp/)